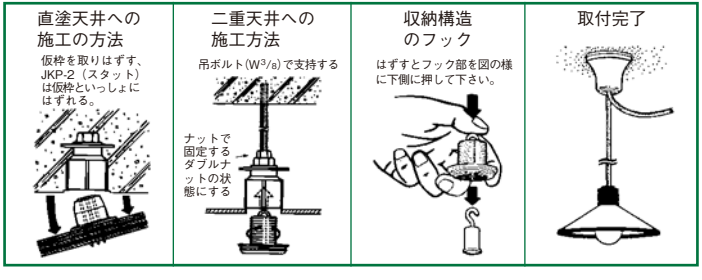
新製品 サーペンフック®（コードペンダント器具用吊り具）

サーペンフックは照明器具を吊り下げるための器具です。住宅公団のご要望で共同開発したもので新築の際に天井に埋め込んでおくものです。その特長は　１照明器具の移設が簡単　２確実で、きれいな仕上り　３部品を紛失しない収納構造　４直塗天井、二重天井のどちらでも使用できます　５使用者にわかりやすい説明書つき



お客様のご要望で生れたネグロス製品第一号アングラック

◎　現社長菅谷政夫が電気工事店を開業して７年目の昭和２９年10月に、工場が焼けたお客様から、今度は燃えない鉄骨で建てるが安くて体裁のよい電気工事をしてほしいと頼まれました。

◎　当時、鉄骨建築の電気工事を安くするには、アングルにタル木をしばりつけて碍子引きすることでした。ところがその方法では第一に火災予防上よくないし、体裁も悪いので苦慮していました。とりあえず、間に合わせに従来の方法でしておいて、もっとよい方法を考えて取りかえることを申し出て了解を得ました。

◎　試作品は設計変更しやすいことを考えてプレスよりも鋳物にしましたが、丈夫にし過ぎると重いし、軽くし過ぎると折れるし、苦心の末にやっと２２回目の試作で使えるものができ上がりました。最初は碍子１個用だけしか作らなかったので、取りつけてみて非能率なことがわかり、急いで６個用までを完成しました。

◎　翌３０年３月新製品を使った工事の立会検査を受けて好評を得ました。この新工法をみにこられた東電の上野所長さんから特許出願のことを教えられ、また関東電気協会の中島さんには商品名をアングラックとつけて頂き、電設工業３０年６月号に新製品紹介をして頂くやらで、急速に業界に普及し、それにつれてネグロスも工事専業から少しずつメーカーの仕事がふえてきました。

◎　その後引き続いて開発されたパイラック･ＦＶラック･ポリブロックなども同様な生い立ちであります。お客様のご要望に沿いたい念願が周囲の関係者を動かして自然に製品として生れてきたのです。本文のサーペンフックも同様にして生れたもので、ネグロス創業の精神は今も生き続けております。

昭和３０年代のアングラック

碍子３～６個用　　碍子１個用